

第 56 回、第 57 回伝道研究会

「天理教の海外伝道における文化活動」

森 洋明

さる 7 月 28 日（土）、「天理教の海外伝道における文化活動」をテーマとした伝道研究会を開催し、同シリーズの 2 回目として、天理日仏文化協会会長の津留田正昭氏が「活動紹介と今後の展望」と題して発表をおこなった。

最初に同協会の日頃の活動の様子や、昨年 2 月に開催された設立 40 周年記念式典の模様、また「日本とフランスの相互理解の促進」においてその功績が認められたことにより受賞した外務大臣表彰のことについて、映像を交えて紹介した。続いて、文化協会の設立に至った経緯から、布教活動の一助としての文化活動の位置付けについての歴史的な背景を振り返り、さらには 2010 年 10 月に天理大学との間で結ばれた協定により、大学にとっては初めての海外分校としての活動や相互の交換留学制度などについて言及した。また文化協会が昨今抱えている課題にも触れ、その中で人材の育成、とりわけ教内者の日本語教員の不足が指摘され、天理大学とのさらなる連携の重要性が確認された。

またシリーズの 3 回目として 12 月 4 日（火）には、元ハワイ伝道庁書記である一瀬孝治氏（現天理大学国際交流部長）が、「在ハワイ『天理教プリスクール閉園』の教訓と検証」と題して、1974 年から 1985 年までハワイで開かれていた天理教プリスクールの開園から閉園に至るまでの経過を振り返った。その中で、天理教としての文化活動に対する基本的理念と方針の確立の必要性や、活動資金の問題、また活動を進めるに当たっての運営や経営の理念と方向性を確立していくことの重要性が確認された。

研究所としても、こうした議論を重ねることで、天理教の海外伝道における文化活動のあり方やその意義、また研究会で指摘されたさまざまな課題などについてさらに継続して考えていきたい。

第 254 回研究報告会

「おさしづ」における「道」と述語

辻井正和

おさしづ正巻（1～6 巻）に見られる「道」の用例は 5812 例（「道理」「道筋」などは除いた数字）である。それらに対して、道に続く助詞別に、道を修飾する語句、道に対して用いられる動詞（形容詞・助動詞なども含む）を数えて、クロス表にまとめ、コレスポネンダンス分析と呼ばれる統計的手法を応用して、「おさしづ」における「道」のイメージを概観することを試みた。その結果を簡単にみると、次のようである。

助詞〈を〉の場合、使われる動詞は、当然のことであるが、「通る」「付ける」「運ぶ」が多い。どのような道を付けるのかという点から見ると、「ろくちの道」「自由の道」を付けるということである。また、どのような道を通るのかといえば、「艱難苦勞の道」など苦勞に関する用例が多いが、「長らえての道」な

ど時間に関する用例も多い。また、「ひながたの道を通れん」「世界の道を通る」などが、これらに対比される形で出ている。「細い道」については「通る・通す」のほか「許す」などの表現もみられ、グループ化がしにくい。

助詞〈が〉の場合、「○○の道がある」の用例が多い。そして、「ひながたの道・古き道がある」と「世界の道がある」が対比されている。

助詞〈は〉の場合、「案じる道は無い」「道なき道は無い」などの用例も見られるが、「細い道」と「往還の道」に対して「通りよい」と「通り難くい」が混合して使われることが目立つ。すなわち、「細い道は通りよい」「往還道は通り難くい」がその逆よりも多く見られる。また、「世界の道は通りよい」とも言われている。

以上のような結果を見てみると、「おさしづ」には、「元初りのお話」や「おふでさき」にも見られる視点（年限・困難）などとともに、「おふでさき」には見られない「世界の道」との対比が強く見られ、「細い道を許す」「往還道は通りよい」などの用例と結びついていることが推測できる。「おさしづ」の時代になって、教会本部の設置や一派独立への動きなど、新しい道が始まったことが、「おさしづ」に反映されていることがその理由であると考えられる。「これで大道と思てはならん。往還道は未だへ。」（さ 32・10・5）という言葉が印象的である。

『グローバル天理』年間購読のご案内

原則的に新年度は 1 月号からとなっております。購読料については、送料のみの実費負担です。申し込みは、封書、FAX、メールでお願い致します（お電話での申し込みはご遠慮下さい）。毎月の希望冊数と、氏名(フリガナも)、郵便番号、住所、電話、FAX、E-Mail、職業をお知らせ下さい。申し込み受付後に振込み用紙を送付致します。切手・現金でのお支払いはご遠慮下さいようお願い致します。振込みを確認後、発送させていただきます。

送料（ヤマト運輸メール便）

全国一律、A 4（角 2）厚さ 1 cm まで（10 冊まで）80 円でお届けします。

11 冊以降は 160 円になります。

例 毎月 1～10 冊購読 80 円×12 カ月＝960 円

毎月 11 冊～購読 160 円×12 カ月＝1,920 円

問い合わせ先：

〒632-8510 奈良県天理市柚之内町 1050

天理大学 おやさと研究所 「グローバル天理」編集部

FAX 0743-63-7255 E-Mail: oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

『グローバル天理』
合本のご案内

これまで出版された『グローバル天理』の合本を頒布しています。これは 2000 年から 2011 年までの各 1 年分（12 号分）を 1 冊にまとめ、簡易製本したものです（頒価は 200 円）。

公開教学講座の会場と、研究所事務室のみで取り扱っていますので、お求め下さい。郵送による頒布はお断りしております。お問い合わせは郵便か FAX、もしくはメールにてお願いします。